



安倍政治はアメリカ言いなり・国民の命も守れぬ

災害対応より赤坂自民亭

7月5日夜、こんな光景が発信されました。

天気予報は緊急事態を告げ、京都・大阪などに避難勧告が発令中でした。非常時に自衛隊を指揮しなければならぬ小野寺防衛大臣も参加して大宴会です。

次の日、麻原彰晃らオウム幹部7名の死刑が執行されました。この事を知っていたのは執行命令を下した「赤坂自民亭女将」の上川法務大臣や閣僚です。

安倍総理をはじめ自民党の50名もの国会議員が赤坂の国会議員宿舎で大盛り上がり。

8日にやっと非常災害対策本部の初会合、この間、被災地では多くの犠牲者を出しています。

危機感ゼロの人たちが国の中枢にいることは、国民の不幸です。



西村官房副長官のツイッターより

カジノより被災者支援を

大阪北部地震に続き、西日本に大豪雨、こんな時こそ政府は国民の命を守る行動を取らなければなりません。繰り返される大災害、もつと防災にお金を使うべきではないでしょうか。

安倍内閣は国会を延長して「働き方改革」と、過労死を促進する「定額、働かし放題」の高度プロフェシヨナル制度や、トランプ案件と云われる「カジノ法」を強行的に採決。

防災に頑張らなければならない公明党の国交省石井大臣は国会でカジノ法に集中。国会を休会し被災者を救済するために国を挙げて取り組むのが当たり前ではないでしょうか。



タイの洞窟に閉じ込められた子供への救援にタイ国民と国際的な支援が寄せられました。日本政府の取り組みは本当に情けないことです。

体育館避難所は見直すべきでは

地震国イタリアでは国の「市民保護局」が避難所の運営に当たりエアコン付きのテントやバス・トイレを緊急に設置しています。更にホテルを国費で確保するなど国民を守るため国が立ち上がります。

過酷な体育館での避難所ではなく国民の命を守るため、災害のなかでも憲法25条「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」が必要です。

軍備拡大より防災予算増やせ

日本の防衛費はGDPの1%を超えてきています。トランプ大統領に「日本はアメリカの高額な武器を買ってくれるね」と云われ、安倍総理は絶対NOは云いません。「GDPの2%にしようね」とも云っています。

イージスアショアというミサイル迎撃のミサイル設備を1基1000億円で2機も購入しようとしています。運営費も膨大になります。防衛予算を増やし、防災予算を削ってきた事が国民の命すら守れない事態を招いています。

これだけ憲法を壊し、国民生活を破壊してきた安倍総理に「レッドカード」を。

憲法9条を守る署名は安倍内閣NOの意思表示です。

ぜひ皆さんの御協力をお願いします。

戦争を知らない若い世代の 交流のひろば

西京の
動き

今号では、高度経済成長期以降に生まれ戦争を実感して
いない世代のなかまの原稿を掲載します。

京都大学立て看板騒動

西京区大枝在住 北川恭子

先日、京都大学の周りを囲む
立て看板が大学の手で撤去さ
れました。立看は市が定めた
景観条例に反するという一市
民からの苦情に対応したもの
だそうです。

それに対して京大OBの弁護
士らが「表現の自由を委縮さ
せる恐れがある」と声明を発
表したり、近隣住民らが「こ
れも昔からの京大の景観だ」
とする署名を集めたり、学生
自らも「これが俺たちの景観
だ」と訴える新しい立看を設
置する等、様々な人々による
抵抗が続いています。



大学といえは立看とい
う定番も今は昔、京大の
立看は今ではむしろ学生
の健全さの証のように感
じていたのは私だけでは
なかったようです。

観光都市を標榜する京都
市に景観を守る条例は確
かに必要なものなのかも
知れません。

でも表現の自由を保障す
る日本国憲法に勝る条例
など存在しないはずです。
近年そんな基本的なこと
が忘れられている気がし
てなりません。

たかが立看、されど立
看、この騒動の行方に今
後も目が離せません。

西京ピースウォークⅡに40名が参加 安倍改憲NOを力強くアピール

6月17日(日)、西京ピースウォーク実
行委員会の主催で2回目のピースウォーク
の取り組みがあり、新婦人西京支部、洛西
平和ネット、西京の学区9条の会、年金者
組合西京支部のメンバーら40名が参加し
ました。

参加者は桂巽公園から桂駅東口まで各団
体ののぼりやプラカードを掲げて、「安倍
内閣は総辞職」、「ウソつく政治は許さない」、
などと声を上げ、パレードしました。
パレード後、桂駅東口で30分ほど宣伝を
行いました。

7月21日(土)に3回目の西京ピース
ウォークが計画されています。

午前10:00 桂高校前集合～自衛隊～JR桂川

JR桂川駅で宣伝後11:00解散(どなたでも参加できます)



桂駅西口付近を元気よくパレードする
西京ピースウォークⅡの参加者たち